



特定非営利活動法人日本防災士会 奈良県支部 広報 No.9/2013

■支部活動

第6回奈良県支部総会を開催

さる5月19日(日)、奈良市防災センターにおいて、日本防災士会奈良県支部第6回総会を開催しました。

総会には、奈良県安全・安心まちづくり推進課 山崎友宏課長を始め、奈良気象台 小野善史防災気象官、奈良市市民生活部危機管理課 梶井剛主幹、奈良市消防局 徳岡泰博局長、日本防災士会兵庫県支部 田辺義博事務局長のご臨席を賜りました。

総会は、御門久実防災士(JP部会)の司会で始まり、木本喜信支部長が開会のあいさつを行ったあと、来賓の山崎課長、小野気象官のあいさつ、祝電披露と続き、その後議案の審議に移りました。

総会の議長は前川輝男防災士(支部広報部長)が務め、予定していた議案は全て原案通り承認されました。参加者からは、事務局の体制強化の必要性など積極的な意見があがりました。また、今後の支部活動を進める上で支部のNPO化について協議を開始することも提案されました。

総会終了後は、新規会員になられた方々の紹介を行い、新会員からは、自己紹介と今後の防災士としての決意が述べられ、総会に参加した会員が決意を新たにしました。

＜村山 央 防災士＞

●第6回総会議案

第1号議案

平成24年度事業報告

第2号議案

平成24年度会計報告

第3号議案

平成24年度会計監査報告

第4号議案

平成25年度事業計画

第5号議案

平成25年度予算案

第6号議案

新役員の選出



●新しく信任された役員

支部長 木本喜信 (奈良市)

副支部長 中田勇四郎(奈良市)

〃 木村尚史 (御所市)

〃 奥田英人 (橿原市)

事務局長 植村信吉 (三宅町)

〃 次長 南上敏明 (天理市)

〃 補佐 村山 央 (広陵町)

会計 古瀬博之 (奈良市)

幹事 前川輝男 (奈良市)

〃 井上 清 (奈良市)

〃 川口 均 (生駒市)

〃 柏田勝幸 (田原本町)

〃 丹羽松一 (奈良市)

会計監査 伊藤東洋雄(王寺町)

〃 西川隆清 (三郷町)

顧問 中川 徹 (奈良市)

■第6回総会記念研修会

“南海トラフ地震”

奈良県の課題と防災士の役割

兵庫県立大学環境人間科学部 木村玲欧准教授

総会終了後は記念研修会として、兵庫県立大学環境人間科学部の木村玲欧准教授をお招きし「南海トラフ地震 奈良県の課題と防災士の役割」と題して講義していただきました。奈良県の地盤の危うさの再認識「わがこと意識」の普及をはじめ防災教育の必要性をあらためて認識しました。以下、講演内容から一部抜粋したものを掲載致します。

●南海トラフが動くと

南海トラフが動いたときの巨大地震による奈良県の被害は、内陸型地震に比べて小さい。しかし、電気、水道、ガスは長期間中断し、津波による被害が甚大かつ広域に及ぶため、奈良県への人的・物的支援は二の次になるのは必定で、県内で1週間は自助努力する必要があります。



●奈良県の活断層とその対策

奈良盆地は断層の陥落でできたものであり、奈良県には活断層が集中していて、奈良盆地東縁断層など8つの活断層が確認されています。内陸型の地震は周期が非常に長いので、いつ起こるかわかりません。

もし、奈良盆地東縁断層が動けば、マグニチュード7.5(阪神淡路は7.3)震度6強以上となり、死者5,000人以上の甚大な被害が予想されます。阪神・淡路大震災における犠牲者の8割が建物の倒壊によるものでしたから、今後そういった被害を減らすためには、家屋の耐震化や家具の固定が必要です。

●緊急地震速報の活用と訓練

緊急地震速報を受けた場合や建物の揺れを感じた場合には、とっさの対応が身を守ります。知らなければできないので、学習により対応策を知ることが大切です。また、訓練により身体で覚えたことは、とっさの反応につながります。

新たな防災訓練として、特定の地域で一斉に参加する訓練“シェイク・アウト”が広まっています。広報・教育そして訓練によって「わがこと意識」を高めるとともに、地域内の連携で1週間程度乗りきる仕組み作りが必要です。防災士のみなさんの活躍に期待します。



＜村山 央 防災士＞

■地域防災活動

十津川村にて“防災マップ”づくり

去る1月14日(月)、奈良県地域防災力支援事業「みんなで作る防災マップ(水害・土砂災害編)」が十津川村住民ホールにおいて開催されました。

この防災マップ作成事業は、奈良県(安全・安心まちづくり推進課)と十津川村が呼びかけて行われました。奈良県の協力要請を受けて支部からは、佐古金二郎(十津川村)、柏田勝幸(田原本町)、高木忠雄(奈良市)、松尾修(大和郡山市)の4名の防災士が、ファシリテーターとして参加しました。地元十津川村からは、行政、消防関係者、地区代表者(約100名)が参加され、関係者が一緒に作業を行いました。

当日は、兵庫県立大学の木村玲欧准教授の指導の下、それぞれの地区の強みや弱み、そして課題などを3つに絞り込む作業や、その対策、解決方法を話し合いました。併せて、地域の人たちの命を守るための避難方法などを考え、意見交換なども行いながらマップづくりが進められました。

また、去年の紀伊半島大水害の被災者や体験者も参加され、当時の様子などが生々しく語られるなど、あらためて防災・減災への取り組みの重要性を再認識する一日となりました。

最後に出来上がったマップは、木村先生が監修し、その後、地区のみんなでその都度手を加えながら、防災訓練や災害時に活用して行くことが確認されました。

参加した防災士にとっては、今後も活動を継続していく必要性を再認識するとともに、災害の被災者や体験者の生の声を聞くことで、今後の防災活動により一層頑張ろうという気持ちが起きるなど、有意義な研修となりました。

＜南上勝栄 防災士＞



■支部研修報告 緊急災害時にアマチュア無線を活用

平成25年3月10日(日)午前10時より、奈良市防災センターにて支部会員向け「アマチュア無線勉強会」を開催しました。

上田量次防災士(1級アマチュア無線従事者免許所持)が講師をつとめ、支部防災士19名が参加しました。

無線従事者免許取得までの流れや、実物の機材を用いた使用方法等を学習すると共に、緊急災害時には、総務省から日本アマチュア無線連盟に支援要請があり、官民協同で支援にあたった事例も学習しました。

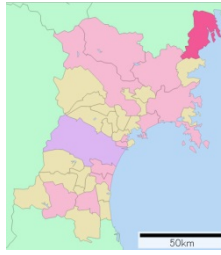
また、アマチュア無線の豊富な経験を持つ中澤哲也防災士からも、参考になる詳しい説明がありました。



上田量次 防災士

■災害復興支援活動

伊藤東洋雄防災士 復興支援で気仙沼へ



来る2月1日、支部監査役の伊藤東洋雄防災士（王寺町）が災害復興支援の臨時職員として宮城県へ赴任されることになりました。任期は2年で、赴任先は宮城県気仙沼市です。現地では、主に土木技術者として復興支援にあたられます。

ご高齢（72歳）にも関わらず、被災地での復興支援に向かわれる伊藤防災士の心意気に敬意を表すると共に、万全の体調管理をされつつ、無事、責務を果たされますことを心から願い、支部の皆様にご紹介します。右の欄に、伊藤防災士からのメッセージを掲載します。

■NHK 奈良「防災知恵袋スペシャル」に8名の防災士が参加 災害時、ラジオは重要な情報源

平成25年2月23日（土）、NHK ラジオ特集「防災知恵袋スペシャル」に視聴者として支部から8名が参加しました。防災士でもある NHK の谷口アナを中心に、防災心理学が専門の兵庫県立大学の木村玲欧准教授、楽しみながら防災を学ぶ活動をしている神戸の NPO 法人プラス・アーツの田辺さん、台風12号の災害時ツイッターで現地の状況を発信した十津川の地案さんがゲストとして参加され、午後1時から4時までの3時間の生放送として行われました。

●復興に向けて（1 時台）

十津川の地案さんの話や、奈良県南部の被災地の現状、いまだに仮設で不便な生活をしている話など各地域の苦労話が電話でありました。また、宮城県に派遣され気仙沼で活動している伊藤さん（防災士会奈良県支部会員）からは、なれない土地で、雪の中、単身赴任の苦労話もありました。



●奈良県の災害想定で何が必要か（2 時台）

南海トラフや奈良盆地東縁断層などいつ起きても不思議ではない地震への備えについて、木村先生が「わがこと意識」を皆が高めていく必要性を強調されました。又参加者へクイズ形式で質問をされるなど、会場の参加者も一緒に考えました。

●防災に役立つヒント（3 時台）

プラス・アーツの田辺さんからは、防災訓練とおもちゃ交換会、防災体操、ゲームなど子供用のプログラムを組むことで子供のころから防災について楽しく学べること、また、子供につられて若いお母さんが参加することなど、防災意識を高める活発な活動の紹介がありました。

続いて「3,000 人の避難者に2,000 人分の食料」「避難所で風邪が流行った場合」や「ペットと避難所」など答えのない問題を検討することの大切さ等々、沢山の話題が取り上げられました。

その他、NHKからのデータ放送や一般の人から情報を送ってもらうシステムなどの紹介がありました。

時々傍聴席にいる私達一般参加者にマイクが向けられ、緊張の3時間となりました。

<村山 央 防災士>

「宮城県へ復興支援 に行くにあたって」

この度、東日本大震災で壊滅的打撃を受けたインフラ復興のため宮城県に赴任することになりました。日本防災士会奈良県支部では、皆様と一緒に色々な活動や勉強をさせて頂き、ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

宮城県では、やらなければならない復興事業が多いのに、それに携わる技術者が足りなくて困っているという現状を知り、土木技術者の一人として何かお役に立ちたい、との思いから職員募集に応募しました。宮城県は気仙沼市に派遣が決まり、主に下水道事業の復興（計画・設計・施工管理）に携わることになります。

生れてから関西より北では生活した経験がなく、土地勘もなく、気候風土もわからない上、2年間という長期間を全うできるか不安もありますが、被災者の皆様と一体となって、できるだけ早く正常な生活を取り戻せるよう微力を尽くしたいと考えています。

今後とも、ご指導・ご鞭撻
よろしくお願いします。

<伊藤東洋雄 防災士>



■「奈良地方気象台」表敬訪問 地域防災力向上活動 のために相互協力が必要

さる5月2日、奈良県支部中田勇四郎、奥田英人副支部長と植村信吉事務局長が奈良地方気象台を表敬訪問しました。この訪問は、地域の防災活動を進める上で県内の様々な関係機関との連携を強める為に行ったもので、奈良地方気象台を訪れるのは支部結成以来初めてとなりました。



気象台では、小野善史防災気象官、築山秀治土砂災害気象官が出迎えて下さり、気象台の取り組みや防災士会の活動などについて意見交換をしました。支部からは、会員のスキルアップ研修や今後の支部活動への協力要請を行い、気象台からは、県内の地域防災活動の情報交換や気象庁が進める県内地域防災力向上活動などについて防災士会に協力をお願いしたいなどの意見が出されました。

今後、定期的に意見交換や情報交換などができるようにしていくことで、話がまとまり、終始和やかな中での気象台訪問となりました。

また、意見交換の後、築山気象官が気象台施設を案内して下さり、施設内を見学させて頂きました。

＜植村信吉 防災士＞

■地域防災活動 生駒市の“らら♪まつり”に参加

さる2月23日(土)、生駒市が主催する「第4回らら♪まつり」が生駒市コミュニティーセンターで開催されました。

「らら♪まつり」は、生駒市のららポートに登録している65のボランティア団体が年一回一堂に会する「おまつり」で、様々な催しが行われます。参加者も年々増え、800人を超える市民の方々が訪れる生駒市の一大イベントとなっています。

このイベントに、当支部生駒ブロックも参加し、防災啓発活動を行いました。会場では、生駒ブロックの防災士の指導のもと、主にちびっこ連れのご家族に、ダミー人形とAEDを使った「親と子の心配蘇生」を楽しく体験して頂きました。

参加者の中には、市内のボランティアリーダーがいた事もあって、熱心に危険箇所チェックや防災マップ作成作業をされ、ワイワイガヤガヤとにぎやかな研修となりました。また、参加者からは、今後「自分たちの地域でもやってみたい!」という意見が多数寄せられました。

今回、市内の各ボランティア団体や市民の方々との交流を通して、「防災」への取り組みと、防災士への認知度アップをはかることができました。また、今後も生駒市内のボランティア団体や市民の方々と共に、防災活動に取り組む必要性を再認識する一日となりました。

＜川口 均 防災士＞



～お知らせ～

●奈良県防災総合訓練

日 時：2013年8月31日(土)
 午前の部：9時～11時30分
 午後の部：12時～14時
 場 所：宇陀市
 心の森総合福祉公園
 奈良県宇陀市大宇陀拾生 250-2
 (敷地内に「大宇陀温泉あきののゆ」有)



●防災士会メールアドレスの変更について

2013年8月1日より、「日本防災士会 奈良県支部」の公式メールアドレスが変わります。

新しいメールアドレスは、
mail@bousainara.com
 (旧アドレスは、

bousaishikai_nara@yahoo.co.jp)

ホームページの記載内容については、8月1日より、変更します。尚、一ヶ月間は、新旧アドレスとも併用します。

アドレス帳の変更等、ご協力、お願い致します。

■発行日

2013 年 7 月 20 日

■発行者

日本防災士会奈良県支部
 支部長 木本喜信

〒631-0014

奈良県奈良市朝日町 2-395-10

■事務局

日本防災士会奈良県支部
 事務局長 植村信吉

〒636-0215

奈良県磯城郡三宅町上但馬 1-5

Tel.090-8378-1106

mail@bousainara.com